

インドスタディツアー報告会

インド人財と共に働くために 考えたい3つの課題

ワンダライフLLP 代表 林田香織

ながれ



インド概要

- 文化や人財の特徴
- 日本で働くに至る背景



ツアーを通して見えてきた3つの課題

1. 雇用情報の不足
2. ライフキャリア教育の不足
3. 人権保護意識の不足

Question

インドと聞いてどんなイメージが浮かびますか？

01 地理



02 人



03 宗教



インド概要

北インド

民族：アーリア系
宗教：ヒンドゥ教 イスラム教 シク教
食文化：小麦文化



南インド

民族：ドラヴィダ系
宗教：ヒンドゥ教 イスラム教 キリスト教
州によってはキリスト教が多い
食文化：米文化

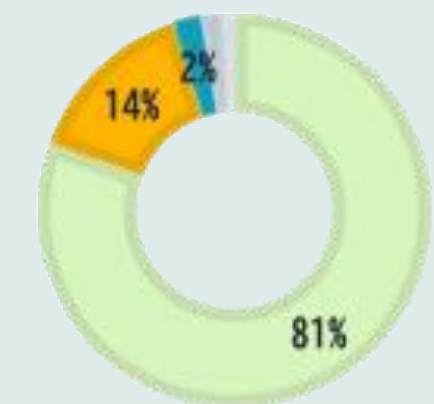


北東インド

民族：モンゴロイド系
宗教：ヒンドゥ教 キリスト教 イスラム教
ナガランドはキリスト教が8割
食文化：米文化



主な宗教の割合
インド全体



■ヒンドゥー教 ■イスラム教
■キリスト教 ■シク教

言語

国家レベルの公用語
・ヒンディー語
・英語

州レベルの公用語
・ 22言語

種族ごとの言葉

地域・州・街・種族・宗教ごとに違いあり
知る→参考程度にとどめる→対話による理解が大事

インド概要

なぜインドから日本を目指すのか？

若者の雇用課題

- 大学を卒業しても雇用がない
- インド国内＝賃金が低い＆生活費が高い
- 出身地域によっては差別がある場合も
- 日本でスキルを学び、故郷に戻り、
地域産業を育てる——循環型の未来を推進

日本に対する憧れ

- アニメ、コスプレ等日本文化が人気
- 「日本は安全」「日本人は優しい」
- 本人だけでなく親も安心
- 5年程度は働きたいがいずれは戻りたい



ツアーを通して見えてきた3つの課題

01

雇用情報の不足

必要な人財に関する正確な情報

ジョブ型 vs メンバーシップ型
認識のズレ

02

教育支援の不足

日本人日本語教師の不足

ライフキャリア教育の欠如

03

人権保護意識の不足

受け入れ側のバイアス

受け入れ企業・外国人財
双方への人権教育の不足

正確な情報 & 教育 & 仕組み & 対話

おわりに

国際労働移動：日本語能力 & 技術（知識）向上で生じるジレンマ



人権保護機能

- 能力に見合った公正な雇用機会と処遇の獲得
- キャリア構築の土台
- 不当な労働搾取に合うリスクを回避
- ハラスメント発生/人権侵害を低減

介護等の再生産労働は「技能化」が特に重要
例：フィリピン・インドネシア



個人へのコスト負担大

- かけたコストと実際の雇用条件のミスマッチ
- 法令を超える高額な費用がかかる場合も
- 長期間借金を抱えながら就労（債務労働）
- 質の向上 & 人権保護のコストを個人が負担

使用者負担で外国人財個人への負担を軽減
コスト ≠ 優秀な人財獲得のための投資